

早朝から三千人が海岸を清掃



海岸を一斉清掃

地元住民ら2000人が参加

海岸を美しく——と、海岸愛護運動月間中の七月二十六日の早朝、久枝から十市の海岸を、地元住民や子供会、婦人会の皆さんが一斉清掃しました。

これは、建設省高知工事事務所、県南国土本事務所、海岸美化推進協議会などが呼びかけて毎年実施しているものです。

参加者は、早い所では午前五時と広場の公開録音やおばけ屋敷などもあり、浴衣姿の親子連れなど大勢の市民が訪れました。

これは、商店街の活性化のために、市商工会後免支部が昨年から実施しているものです。

商店街の沈滞ムードを吹き飛ばそう——と、商店街の土曜夜市が、八月一日から始まりました。一日にはRKCラジオ「MMCふるさ

公開録音に 黒山の人だかり

後免商店街の土曜夜市

薄暗くなるにつれてずらりと並んだちようちに灯がともり、かき氷や金魚すくいなどの夜店には子供たちの元気な声。目吉神社のおばけ屋敷も大人気で、境内には歓声が響いていました。また、六時半から四国銀行前の広場で行われたラジオの公開録音には黒山の人だかりができ、カラオケやジャンケン大会、縄とびゲームなどに盛んな拍手が沸いていました。

土曜夜市は、八月二十二日まで



大勢の市民でにぎわう土曜夜市

半ごろから清掃を開始。くま手を使ってごみを集めたり、ビニール袋を片手に空き缶を拾うなど、約二時間にわたる懸命な作業の結果、海岸は見違えるほどきれいになりました。

今年は、集中豪雨や台風などの関係で海岸は例年の何倍ものごみの山。集めたごみのうち、燃えるものはその場で焼却し、不燃物は

5、6年生 150人が田植え

○長岡小の体験農園○



慣れない手つきで田植えに挑戦

回収しましたが、回収した分だけでも二トトラック十分、そのほとんどが空き缶でした。また、テトラポットの中には食事をした後投げ込んだとみられる発泡スチロールがいくつか見られました。

六月には十市の海岸に海亀が上陸し、産卵しました。自分で出したごみは自分で持ち帰るということ心がけ、そのような美しい海岸を守っていききたいものです。

米作りを体験しよう——と、七月二十二日、長岡小学校（坂本町校長、生徒数三百八十六人の五、六年生約百五十人が、学校の西側にある山本勝城さんが管理する水田十町にもち米の苗を植えました。

これは、子供たちに米作りの苦労を知ってもらい、米に親しんでもらおうと、市米消費拡大推進連絡協議会が昨年から市内の小学校で実施しているものです。

子供たちは、水の張られた田のあぜに水着姿などで一列に並び、

坂本校長の指示で一斉に植え始めましたが、全員が初めてとあってなかなかうまくいきません。坂本校長は、「おはしを持つように持って」「植えた苗を踏まないように気を付けて」とハンドマイクを片手に懸命にアドバイスをしていました。

この日植えた稲は、十一月に子供たちの手で刈り取り、赤飯やもちにして味わうことになっています。